

姫路西高新聞

発行所 姫路市伊佐郡
姫路西高生徒会
新聞部

印刷所 大西印刷所
姫路市西塩町

貴方の
万年筆は



やまとやしき
萬筆年部

行事豫定

三月 四日 期末考査
五日 〃
六日 〃
八日 〃
十八日 入学試験日
十九日 〃
二十三日 入学考査
卒業式

莊重 第一八回卒業式

雄々しく築立つ四九二名

昭和二十八年卒業証書授与式は二月二十六日午前十時より学校長、教員、P・T・A会長、卒業生父兄、多数来賓の出席の下に国歌斉唱に始まり、次いで卒業証書並に賞状授与があり、校長、来賓の祝辞、在校生代表の答辞、これに答えて卒業生代表の答辞があつて、仰げば尊し、敬の光、校歌斉唱を最後に意氣凛々この式典は閉じられた。

卒業生四九二名にとつて今日こそは次の期である。

は、高校生活最後の感激の日で、皆勤賞受賞者あり、各々に新しい人生への第一歩を踏み出す輝かしい日である。

大町信、黒岩周六、勇松昭雄、後藤入、池内敬信、石田雅英、下村真、寺田泰久、中山隆司、美根武、門口悦英、山村和幸、井上憲文、上岡正和、小川文海、北本謙和、堀谷義宏、杉田利典、常次泰年、長谷川武正、土磨翠子、池内瑞太、下村謙彦、中野太郎、池田裕子、山本泰子、室田貞次、岩崎祥子、内海尚子、小林なほみ、川中かほる、釣部英子、友定通昭、畑中八重美、丸山文子、森千恵子、渡原英子、山田裕子、戦治敏子、小西三重子、高島三枝、田中弘子、高橋智寿香、中安みち子、橋本貞澄、福水和代、宝野陽子、矢内春美、名倉功前田康光、矢内久岡、石井綾子、長田栄子、高谷知孝、松尾幸子、堀初美、平野敦美、橋本玲子、遠岡小智子、後藤多栄子、

高田たす子、田中豊子、野田山美、藤原信子、藤原昭代、大野隆久、小山宗和、上月忠男、須貝博一、中安正博、渡辺成一、井上真子、沢田千鶴代、清水枝子、吉川和代、山崎智秋、渡辺千代英、木村エミ子、岸木広中村謙、永瀬元信、波根正智、福水泰隆、正木丈、御立雄雄、

山本利昭、尾上正子、小畑昭子、橋本まよ子、藤原久子、室井絹代、赤藤賢代子、以上補代 木村エミ子、大浦祝生、常次次、畑和幸、土井利一、福永利文、三木敏弘、伊藤俊一、大船通、中沢秀治、梅沢明子、友野昭英、藤崎智子、的基千世子、朝倉賢一郎、坪田行雄、長谷隆二、日坂史良、三木啓一、守田隆志、泉井文子、井上陽子、大谷国子、坂井宗緒、松久和子、有本幸男、井上正子、上野佐徳子、鬼木不二、小松芳子、高田小夜子、中山典子、林代子、堀みゆき、橋本啓子、三木洋子、三木玲子、三橋由子、和田洋子、石川信男、立石明子、中沢幸子、山崎三恵子、

以上総代 三木 洋子、全級委員功賞受賞者 黒岩周六、中沢孝介、池井謙一、波根正智、梅智もりよ、以上総代 中沢 孝介、

子、田岡千代子、桂千鶴子、高橋敏生、石本朋子、上正ちよ子、大西千葉、後藤大代子、野塚松子、平井希子、福本多恵子、本条澄代、山本てい子、小島多美子、牛原雅英、中塚康朗、松崎隆美、奥山貞子、小林はつき、中杉初枝、大畑敏男、河内智郎、福山賢、的基直美、河内京子、小坂篤美子、曾我悦子、平野温子、大野慈子、

以上総代 三木 洋子

卒業式を迎えて

賀集音市



学校長 賀集音市

難されようとしている。ああ何と語り悲しいことであろう。祖国を失つた民族、民族精神を失つた国民、これほどあわれなものがあるであろうか。若者人達よ、心ある人々よ。速かに祖国に帰れ、日本に帰れ、そしてこの古く守り土に、青年は日本のホープである。行け、行け、雄々しいその姿を私は後より合掌しつづおろがみ送つてい

全校生徒委員長 的基教介



私達の良き上級生として、短かつたとはいへ過去二年、あるいは一年の間、いろいろとお世話になつた諸兄姉の晴れの御卒業を心から祝ひたい。

皆さんは確かに高校生らしく生活に行動されました。これは極めて大切なことだと願います。私達はともすれば勉学のみで走り過ぎ若者らしく、高校生らしい意識ある学校生活を持つことから遠ざかる傾向があるのではないかと願われます。

私達は皆さんや、それ以前の先輩達のあの活発な生気あふれる学校生活を理想として、明かきい西高を築く為、本当に高校生らしく四年生となるよう努力します。母校をあとにして新しい旅に門出しようとする皆さんの前途には、幾多の難関が立ちよまがっているかも知れません。しかし、

黒岩周六



毎半年卒業式がやつて来る度に、学園を築立つ卒業生は、過ぎ去つた学園生活のいかに短かつたか、しかしいかに楽しいものであつたかを痛感し、はや学園を去らねばならない今日、この日を淋しい心で以つて迎える。我々第六期生一同とて決してこの例外ではない。今静かに過ぎ去つた三年を顧む時、入学式が始まつて今日に至る時、

総合的教養の育成を

新生活への指針

第六期生の卒業式を迎えるのが、我が西高の最高機関かえ、二十八年度も大層近づいた。と泣きたくなるくらいである。

論説 第六期生の卒業式を迎えるのが、我が西高の最高機関かえ、二十八年度も大層近づいた。と泣きたくなるくらいである。感念を深くする中、在校生、十五日の全校委員会において当目的生活に願ふとき、前途の委員会に關する二つの重要議案が提出された。その一つは、全校

の際にのみ意見を述べ得ることになつてゐる。疑義を明らかにせずしてどうして正しい意見が発表出来るのか。委員会の良識を疑ふも、形にすることを提案したい。

の生活に必要不可欠、全く積極性がなく、無所関が多いのである。こうした者の云い分を分けるよ次の三つの何れかにあてはまる。(一)誰かをやつてくれ(二)現在の部には適当なものがない。(三)数課二刀制主義

先ず(一)は特に指摘される本成長するのが人権を取つて、一般社会の熱心不足にも起因し、が、大

の熱心不足にも起因し、が、大

以上編代 井沢 茂明

クラブ活動受賞者

図書部 義根忠、内海尚子

放送部 三木啓一

新聞部 伊藤健一、奥野真美子

音楽部 福永康隆

音楽部 藤井正晴

弁論部 中野太郎

物理部 安田寿明

化学部 柳内進、上高正和

文芸部 玉置杏子

華道部 野塚松子

野球部 下村唯雄、浜田精士

競技部 川西正夫、井山雅由

演劇部 白井紹藤

演劇部 長田伸一

水泳部 波根正智

器械体操部 佐藤郁子、渡辺小

智子、古川和代

ソフトボール部 池田裕子

排球部 竹谷恵

相撲部 松井正弘

卒業生に贈る記念品に関する案件が出た。これは西高恒例の行事で、三年生に対する在生のさきやかなる送別の印である。全校代表例は、例年紅白の寿判入りの便箋で、これに対して各級では「食べれば一瞬にして消滅だ。こんなのでは記念にならない。どうしても校章入りのタオルを……」又傍らで「イヤ、メタルは入り込め」の要請派。こゝには「案も出たが将来(特に女性)を考へると、為にならんと……」と議論もあつたが会計担当の「生徒会印ですから予算と相談すると外の費用が食われますよ」で結局、回見本部 河村亮介

以上編代 波根 正智

御健勝を祈る

三年主任の饒別

長谷川 隆吉

三年四月の接触、今更後悔は無い。唯祈る「強く、正しく、明るく」自分の運命は自分で開拓せよ

わいが、活動をして下さい。我々の生活は一途に期待していません。私に、我々は卒業後も常に西高を忘れることなく、日々の仕事に専心して下さう。どうか先生方、在校生の諸君も我々をいつまでも忘れず見守って下さるようお願い致します。

生方、在校生諸君の御健康を祈つて。春暮れ日。

龍頭蛇尾の流会騒ぎ

龍と開会された事は快事だつた。だが龍の頭は未だ早いノカ様にワザ／＼足を運んでいて審議中一人去り、二人減つて、議長殿「三三四定足数ありや？」とカン首を丁度数える状態である。そして遂には審議進行不可態となりお流れとなるのが現在の委員会ニユーススタイルである。こゝに何が飛び出すか大いに期待した甲斐があつた。やはりII・Rが委員諸君の原動力なのだ。

H・Rの時間が省略されるのは遺憾、早く朝会の為には食われる時間を空でカペー。現今の処有名無実化と相成つて居るH・Rを確保せよ、各級共通に出ていた、刷新委員会はどうかのだ。生徒大会を開け、女子便所の増設B.T.C.、又しきりに話題をにぎわしたのが女子から出された食堂つまみマカナイの件だ。女子代表氏は「食堂はもつぱら男子の専用施設と化し、イカツキ諸君が多いので面映ゆい感を感じて行きにくい」とは何んとお気の毒い。大和撫子の面目躍如?そこで打開策如何んと反問されるとツイ立等での意見が出た。だが能くさえ狭まひ所だからとの反対意見で結論持ちこし。

「学業をき多くの言葉はあるがこれ簡単な言葉としてではなく、自己の生活に具現せよ。人の一生とは自己の内面の動きを生活化していく事である。よき言葉、美しい言葉、これを自己の生活に具現し得たらどんなに美しい一生であろう。」

西牧 茂夫

新しい首途に際して次の語句を味わつて頂きたいと思ひます。「先ず対象をよく見よ」之は寺田寅彦氏の言ですが、冷静に理智的に対処するには、ともかくよく観察する事が第一条件です。あせらず動ぜず先ずよく対象を研鑽しなさい。

野間 稔

諸君と共に本校に入学した小生が

今將に学業を果立つ諸君に念願するの「一統統は力なり」といふ諺の体得と手記こそ生命の根源である事を自覚し難事を回避せず、大自然の恵に調和のある如く、諸君の心を調和させる様な人生観の確立を徹してもらいたいといふ事である。

山崎 爲人

誠実な実生活を、
酸しく高い理想を、
現実と理想の二つの歯車の噛み違ひの中に本当の人生が在ると思ひますが、その人生を強く崇高に生き抜いて下さい。

春の盛装はゆめあををよ

山田 利一

体を大切にしてお心をもつて何事にも當つてほしい。

八木 誠造

治に在りて乱を忘れず。乱に在りては治を忘れず。

芥田 曉榮

天分ある人は、それを十分に生かすこと。家庭において、家事と母親の仕事に一生身をすり減らすばかりが女性の天賦使命とはかぎりません。ぬか味噌の匂を忘れる時もある。ぬか味噌の匂を忘れる時もある。ぬか味噌の匂を忘れる時もある。

田中 芳三

私は幸か不幸か就職すべくして未だ就職し得なかつた人々に対し次の言葉を贈りたい。それは一日も早く「二国一城の主たれ」と云ふことである。大会社に勤務しての平穩無事な一生も或いは幸福であるかも知れない。が、奮闘努力で自己の運命を開拓し小なりとも一國一城の主となるべき苦難

西岡平八先生「化学科担当は二十五日、腸捻転のためマリア病院に入院された。衷心より御快癒を祈り致します。」

南壽一朗君「一年四組、飾野郡野村神種。腸捻転でマリア病院に入院中のところ去二十一日午前六時水眠された。ここに深く哀悼の意を表します。」

△船は出帆したマその際、船長以下事務長、機関長、水夫長その他高級船員は全部新しく乗りかえたマ但し船の進路や速度や、乗組員の待遇等一切の権利を持つ船主はもとのままであつた△出帆の時にも別に船の修理も機関の改良も行なかつた△最近水夫たちは船の航行中急に船あしが遅くなつた(もとから早くはなかつたが)△高級船員が苦心捜索の結果これまで

の人生も亦意義ある満ち足りた人と言へるのではなからうか。

東村 正久

うるおいのある生活を営むために何でもよいから趣味を一つでも持つことです。

橋 諒康

星は光るが故に仰がれます。何でも一隅を照らしましょう。

卒業生母校に
記念品贈る

第六回卒業生一同は果敢と行くに際し、永久に母校に残る記念として、次の品目を学校に寄贈した。

一、校旗
二、記念樹二本
三、一本、ヒマラヤ杉二本

待望の校舎總改築

待望の校舎總改築